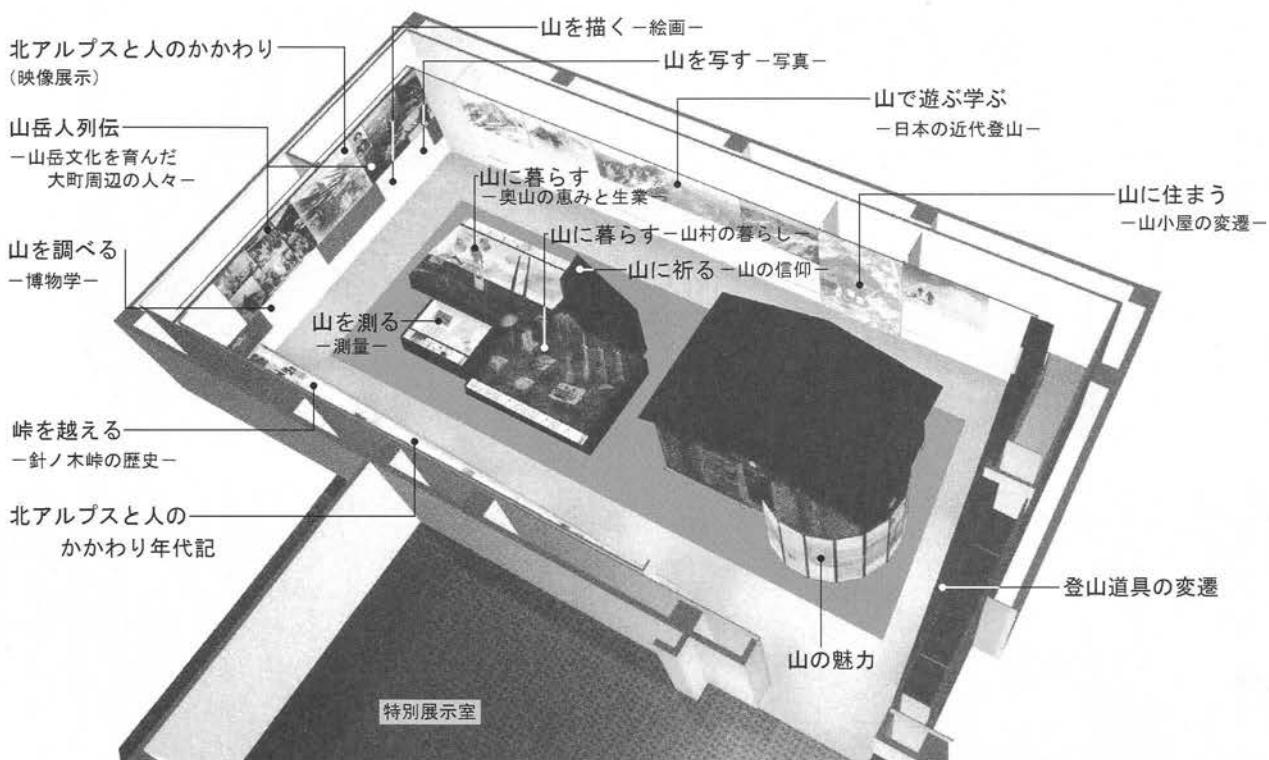


山と博物館

第58巻 第3号 2013年3月25日

市立大町山岳博物館

特集号 「山岳博物館のあるべき姿と常設展示改修」



1階常設展示室「山と人のかかわり」展示改修イメージ図

きらり輝く！ 山岳博物館の未来

清水 博文

市立大町山岳博物館は、昭和26年11月1日に創立し、平成23年11月3日に創立60周年記念式典を迎え、新たな61周年目を出発しました。

開館に先立つ昭和24年作成の博物館設立趣旨書によると、「地方文化の興隆」信州文化の粹たる山岳文化の殿堂、「中部山岳国立公園の施設」「山岳の観光案内所としての博物館」「山岳博物館の立地条件を充たす大町」があげられており、当時の地域住民が、故郷大町において寄つて立つべきものこそは山岳文化であり、その文化の殿堂になるべく、博物館建設へ市民が寄せた熱意と献身的な活動が、現在の山岳博物館誕生の原動力となりました。

また大町市は、山岳博物館創立50周年(平成13年)をきっかけに、21世紀にふさわしい山岳文化の発展と創造をめざすべく「山岳文化都市宣言」を行いました。

私たちは創立60周年を機に、あらためて設立当初の精神を振り返りつつ、「山岳文化都市宣言」の精神に立脚して、これから時代を牽引する山岳博物館のあるべき姿を考えました。

今回は、この創立60周年記念事業の一つとして「常設展示の改修」を行います。

この展示改修を行うにあたり、平成23年3月～7月には、9名の登山史などを専門とされている先生方に議論いただき展示の方針を示していただき、それを基に展示改修の基本構想を同年11月24日に作成しました。この構想には市民等による意見や要望を聞く会の開催や館内アンケートも参考にいたしました。平成24年2月～9月までの間、展示実施設計を完了させ、平成26年3月末までに「展示改修の施工」を行います。この施工には観覧者への安全の確保等により平成25年11月5日～平成26年3月28日までの間臨時休館が必要となります。そこで、この事業と併せて博物館を利用される方々への安全と快適性を高めるため、耐震改修とトイレの全面改修、出入り口の自動扉化、多目的トイレの設置などユニークなデザインの工事を実施します。リニューアルオープンは平成26年3月29日(土)を予定しています。展示内容と施設が新しくなる博物館に、期待下さい。

これから山博(さんぱく)

「きらり輝く山岳博物館を築くため、

いまこそ協働の力で、共有の喜びを！」

市立大町山岳博物館

1 はじめに

大町市は、大町市4次総合計画の基本構想において、美しく豊かな自然文化の風漣（きらり輝くおまち）の実現をめざし、市民あるいは市内を訪れる方などのために、生涯学習の支援と推進や社会教育の充実と活性化を進めているところであります。が、施策を進めるにあたっては、市民の皆様や企業のご協力無くしては、十分な成果を共有し、互いの喜びに結び付けることは困難なものとなってしまいます。

これら課題に対し、当初の目的を達成するため、山岳博物館は、「自然と人が共生する」に、山岳博物館としての果たすべき役割を十分に認識し、機能の充実を図つてしまいたいと思います。

その核となる活動は、北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を基礎として、それに関わる資料の収集・整理・保存・管理を的確に実施することであり、これらを活用して次のような教育普及活動を推進してまいりたいと考えています。

2 市立大町山岳博物館の基本理念

(1) 大町市や周辺地域の人たちのために
山岳博物館では、地域住民や来館者の方々へ以下のような役割をもつて接していくと考えています。

(2) 大町市を訪れる人たちや北アルプスと

その山麓地域の自然と文化を

知りたい人たちのために

① 観光客や登山者をはじめ、北アルプスとその山麓地域の自然と文化について関心を持つすべての人々の、学習のきっかけをつくる手助けをしてまいります。

② 「山岳文化都市」づくりの中核を担う施

① 郷土の自然や文化を見つめ直し、この地域ではこれまでどんなことがあったのか、今どうなっているのかを知り、これから将来はどうなるのかを考える場所を提供したいと考えています。

② この地域にどのような価値があるかを知つていただき、郷土に誇りを持つことができる場所を提供してまいります。

③ 郷土の自然と文化に接し、心の豊かさを感じ、学ぶことの楽しさや大きさを味わつて活動し、それを表現できるような機会や場所を用意してまいります。

④ 豊かな自然環境を護り、自然と共生することの大切さを理解できるような場所や機会を提供してまいります。

⑤ 博物館を中心にして、動植物園、遊歩道、園地、売店など様々な施設を充実させ、博物館一帯がゆっくりとくつろげ、楽しめる場所にしてまいりたいと考えています。

3 これから山岳博物館がおこなうこと

(1) 調査研究の推進

博物館の立地条件を生かし、学術研究や社会教育機関としての機能を高めるため引き続き調査や研究を推進してまいります。

調査や研究の分野および範囲は、北アルプスを中心とした山麓から高山までの地域と、それに関連した人文・自然科学分野の調査研究に重点をおきたいと考えています。そのために、多くの人に資料や情報を利用していただけるように、国内外から多くの情報を集めてまいります。



湿地植物の生活史研究グループの活動

設として、北アルプス周辺のフィールドへといざなう窓口となります。

③ 大町市をはじめ、県内外にひろく「自然と人が共生する山岳文化」の情報を発信し、さらなる山岳文化の創造を進めてまいります。

す。またこのような調査を行うには、山岳博物館の学芸員や専門員だけではその内容が限定されることから、補完的に国や地方自治体、大学などの各種研究機関や市民と連携した調査研究をさらに進めてまいりたいと考えております。

具体的な調査研究事例として、平成25年度は、長野県が改訂を進めている植物レッドリストを作成するため、大北地域の約100種に及ぶ植物の生育確認調査を8月まで行います。

この調査は長野県が進めているものですが、植物の専門的知識が必要なため、山岳博物館が大北地域を担当し、調査には市民などから構成されている大北地域の湿地植物の生活史研究グループに協力ををお願いするものです。

また、山岳の気象を調べるために、爺ヶ岳の種池山荘にお願いをして、気温・湿度・日照時間を見測できる装置を山荘の協力を得て取り付けデータの採取を行っています。これらのデータは信州大学の山岳科学総合研究所と共有し、今後の山岳環境の基礎資料に活用していきたいと考えています。

今後は中長期的な展望のもと調査計画を立て、調査や研究を実施し、学芸員の個人の専門分野の研究のほか、博物館あるいは他の機関との連携を視野に山岳博物館が主体となつた学際的な研究にも踏み込んで、市民の皆様に還元できるように調査・研究を進めてまいりたいと考えております。

(2) 資料の収集・整理、保管の推進

北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する情報発信の核となるよう、また、教育普及活動に活用できるよう、博物館で取り扱うことからを定めて、それに沿った資料・情報の収集・整理、保管をさらに充実させ実施してまいりました。

① 早急に記録にとどめ、保存が必要と考えています。

よう に薬を散布し定期的な管理を実施しているところであります。

① 早急に記録にとどめ、保存が必要と考えられる資料を最優先に収集し、記録、整理をおこない、山岳博物館における情報発信の核とします。

② 資料収集の範囲は山岳、特に北アルプスを中心とした山麓周辺から高山までの地域

これらに関連した海外の人文・自然科学分野に関する資料(有形・無形を含めた事物や事象)を考えております。

③ 収集された資料は適正に管理された環境で保管され、品質の劣化を防ぎ、将来の資産と致します。

館には古既いいたいと資料や山岳博物館が過去から集積した山に関する人文科学の資料約2万6000点が閲覧できるようになりますた(平成25年3月末現在)。

これらの図書資料や動物、植物の標本を将来にわたって保存するために、虫などがつかない



山岳図書資料館内の図書資料整理作業風景

なお平成25年度は大規模な常設展示の改修を予定しております。

山岳博物館での常設展は、自然科学・人文科学の視点から、後立山連峰を中心に北アルプスについて総合的に紹介する展示とし、準備を進めています。

観覧者が北アルプスや大町市とその周辺における大地の成り立ちや変動の様子の展示スペースを充実させ、そこに生息している

なお平成25年度は大規模な常設展示の改修を予定しております。

4 教育普及活動の推進 地域の恵まれた自然・文化

さうに、子どもなどの観覧者が視覚などから体験的・直感的に展示内容を理解して楽しめ、多様な展示資料によって比べることで、観覧者自らが不思議や驚きを持つて新たな気づきができるような、総合的な展示空間を提供します。

立っているまちであることに関心を深め
現代そして未来に向けた北アルプス人と人の
の関わりのあり方や自然と人の共生につ
いて考えていただき、観覧者を北アルプス
とその周辺にある野外フィールドへといざ
なう窓口となる展示をめざしてまいります。

の信仰」など、既存の登山の歴史を中心とした展示から、人と山との関わりからみる山岳文化について詳しく知ることができる展示へと心がけて事前の作業を進めているところです。これによって、当方が独自の「山岳文化」を育みながら北アルプス山麓に成り

大町山岳博物館ならではのカモシカやライチョウなどの展示を授業でも活用できるように工夫をこらしたものとなっています。また今回の展示改修で最も力点を置いたのが、北アルプスにおける過去から現在までの山と人との関わりを「山での暮らしや生業」「山

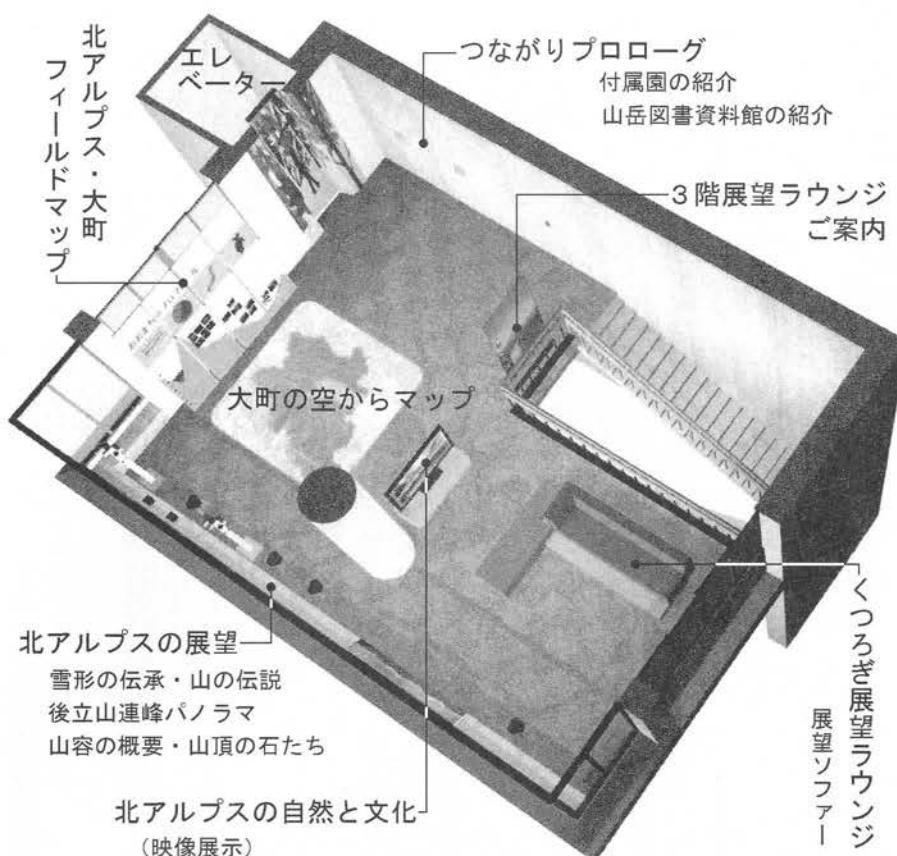
学校と博物館を結んだ事業を積極的におこなう、児童・生徒・（先生）の学習の場とし、開心を持つきっかけづくりをします。

これらを行なうために国や県をはじめとする大学や研究所・博物館・動植物園など、国内外の機関と連携した活動を展開するとともに、地域の情報を取り入れて市民との協働の活動を推進してまいりたいと考えております。

市内小中学校との連携・融合授業

5 付属園(動植物園)の充実

付属園(動植物園)では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見てもういう考え方



3階展望ラウンジ「あなたと山のかかわり」展示改修イメージ図



2階常設展示室「北アルプスの自然ー水の惑星（地球）46億年の旅」ほか展示改修イメージ図

(2) 「北アルプスの自然（2階）」
46億年という悠久の歴史をたどってきた奇跡の惑星「地球」の成り立ち、地球の歴史からするとわずか2000万年という短い歴史ですが、この地の地質構造を考えるには不可欠なフォッサマグナについて展示を行います。また山岳都市（大町）及び北アルプスの成り立ちについて学ぶことができるよう、地質の分野を大幅に拡充致します。

また北アルプスとその周辺の生物の展示では、カモシカのコーナーを充実し、生活の様子を紹介とともに、ニホンジカとの違いや、体のつくりについても、小学校の授業での教材になるよう構成しております。

(3) 「山と人のかかわり」（1階）※図は表紙参照

主なコーナーテーマとして「山に暮らす—山の恵みと山村の暮らし」、峰を越える「針ノ木峠の歴史」「山に祈る—山の信仰」「山で遊び学ぶ—日本の近代登山」「山に住まう—山小屋の変遷」を取り扱い、これまでの展示を刷新してご覧頂こうと考えております。

また、1階フロアの一部を利用して、「北アルプスの未来」と題し博物館全体を通してのメッセージとして、現在の山岳環境の変化を知り、課題を確認し、私たちが今、山に対してすべきことを考えるコーナーとします。



1階エントランス「新・対山館サロン」展示改修イメージ図



大切にしてまいりたいと考えております。皆様にご覧いただく動植物は、生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざします。併せて飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をしてまいりたいと思います。

傷ついたり病気になつた野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をしてまいります。

(2) 「北アルプスの自然（2階）

大切にしてまいりたいと考えております。皆様にご覧いただく動植物は、生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざします。併せて飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をしてまいりたいと思います。

傷ついたり病気になつた野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をしてまいります。

(3) 「山と人のかかわり」（1階）※図は表紙参照

大切にしてまいりたいと考えております。皆様にご覧いただく動植物は、生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざします。併せて飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をしてまいりたいと思います。

(4) 「未来へのメッセージ（背面）

大切にしてまいりたいと考えております。皆様にご覧いただく動植物は、生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざします。併せて飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をしてまいりたいと思います。